

文部科学省選定

小学生向け(中・高学年)

地震・津波防災教育ビデオ VHS・DVD【22分】

監 修

東京女子体育大学 教授

元・文部科学省スポーツ・青少年局 体育官

戸田 芳雄

いのち

# どう守る?自分の命

ひがしにほんだいしんさい

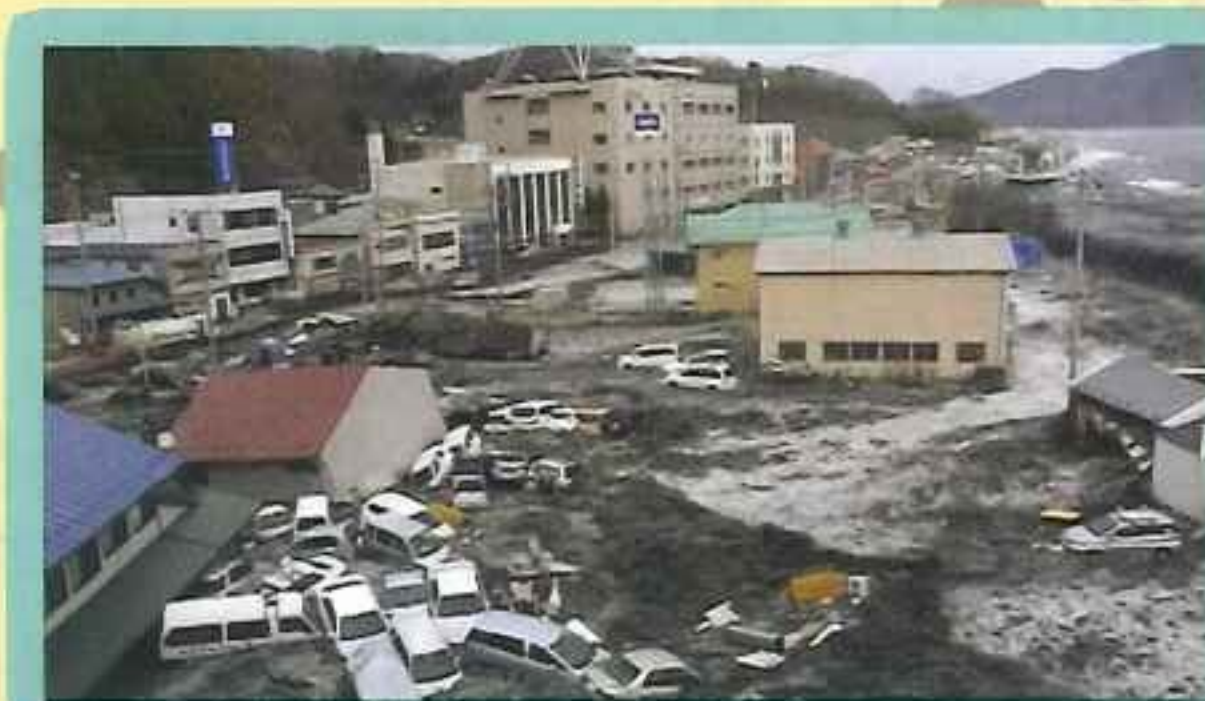
## 東日本大震災から教えられたこと



地震から命を守る



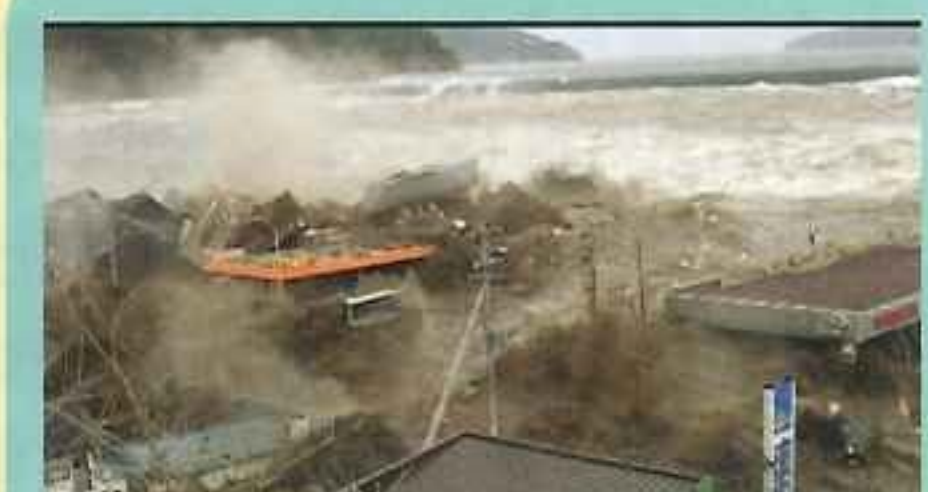
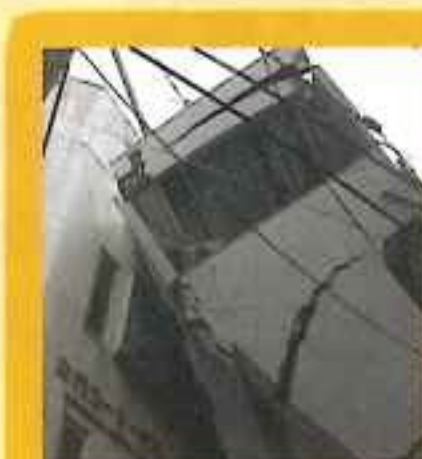
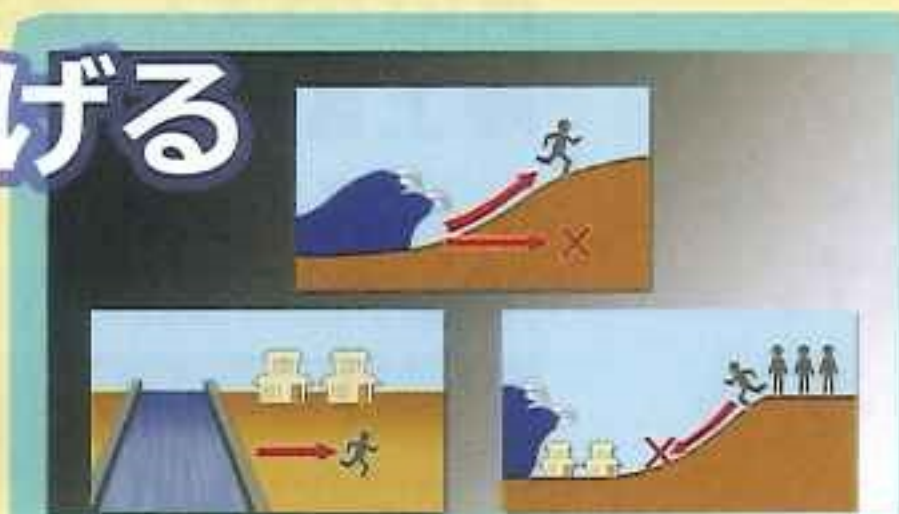
火災から命を守る



避難所で生活する



津波から逃げる



### 企画意図

自然災害は、時と場所を選ばず襲ってきます。

その時、子どもたちは極限下の状況で、自ら素早く判断して命を守る行動が取れるでしょうか？

東日本大震災が襲った時、岩手県釜石市では、震災で破滅的な打撃を受けながら、市内の小中学校にいた生徒全員が津波から逃れ無事でした。

この地域では、防災の専門家と「津波防災教育のための手引き」を作り、小中学校の9年間、津波からの避難場所や経路を確認し、対処行動を考える学習を続けたことが生きたのです。

この作品では、過去の阪神淡路大震災や東日本大震災にもふれ、災害の危険から命を守るには、瞬時にどう判断し、行動したら良いかを、具体的に描いています。



監修者推薦の言葉

東日本大震災の教訓の一つは、日頃の防災教育が如何に重要であるかに気づかせてくれたことです。この震災では、安全と思われていた学校や公共の防災施設、避難所等も津波によって壊滅的な打撃を受け、自然の脅威のすさまじさを見せつけられました。

そうした中で、岩手県釜石市では、ある小中学校の児童生徒全員が背後に押し寄せる大津波から逃れ、無事だったのです。

それは、子どもたちが、地域伝承の「津波てんでんこ」と防災教育で学んだ「率先して避難する」「想定を信じ込まない」「最善を尽くす」ことを、自らの判断で主体的に実践したからでした。

この作品は、阪神淡路大震災や東日本大震災などを題材に、子どもたち一人一人が、自然災害に関する理解と災害時の危険を予測・判断し、危険を回避する能力を身につけるためのヒントが豊富に含まれ、防災教育にとって最適な教材です。各学校、地域で活用されることを期待しています。

東京女子体育大学 教授 元・文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄

作品の概要

※ナレーションは教師と生徒の対話形式で進行する。

■大地震から受けた教訓一阪神淡路大震災

1995年1月17日、兵庫県で巨大地震発生。6440人以上の死者を出す大災害となる。

【激しい揺れから命を守る】家具転倒や家屋崩壊で多数の圧死者を出した。圧死を防ぐには、まず家具の固定。落下物を防ぐ必要性を説く。

【火災から命を守る】この地震では大火災が発生。崩壊した建物が道を塞ぎ消防車が現場に行けず、多くの命が失われた。そんな中、日頃の防火訓練が功を奏し、近隣住民が力を合わせて命を救った例も少なくなかった。当時の被災者から体験談を聞く。

【被災生活を生き抜く】地震発生直後から起こる断水。救援物資が届くまでの数日間を生き延びるためには、水や食料など、その他に必要なものは…

■大地震から受けた教訓一東日本大震災

2011年3月11日、宮城県沖で巨大地震が発生。大津波が襲来し、2万人近い死者行方不明者を出す。

【津波の起きるメカニズム】津波発生のおき、種類、特徴を図解や実験で詳しく解説する。

【想定外の大津波】被災者が撮影した大津波の映像をおり交ぜながら、今回の被害の大きさと、地域に伝わる「津波てんでんこ」の教えを検証する。

【日頃の防災教育が子供たちの命を守った!】岩手県釜石市の小学生たちは大津波に直撃された時、高台に登る中学生を見て、校舎最上階から自主避難。

日頃の防災教育で培われた危機を回避する能力で、自分たちの命を守ることができたのだ。大津波を逃げ切った当時の小学生たちに、インタビューする。

企画・制作統括 高木裕己

脚本・演出 川崎けい子

コーディネーター 斎藤晃顕

【撮影協力】

井吹東ふれあいのまちづくり協議会 いぶきジュニアチーム  
神戸市西消防署/宝来館

千葉正喜/熊谷久・房子/吉田栄治/瀬戸元/浦山文男/  
紺野光夫/両川吉信/佐藤健・和香子・桃香・繁/山崎元市/  
岩崎昭子/小林小百合

【映像・写真提供】

独立行政法人 港湾空港技術研究所

陸上自衛隊東北方面総監部

小林義一・徳光/岸安夫/瀬戸元/伊藤聡/山崎元市/  
浦山文男/両川吉信

■ライブラリー価格 ¥65,000 (本体価格)

■学校価格(小学校のみ) ¥33,000 (本体価格)

■VHS・DVD[22分]

●お問い合わせ、お買い上げは……



有限  
会社

博映商事

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1丁目3番31

TEL. (092) 741-0306

FAX. (092) 741-6628 特殊